

(別紙) 応募用紙「土木広報大賞 2021」

団体名：鉄建建設株式会社			
応募部門 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> イベント部門	<input type="checkbox"/> 映像・メディア部門	<input checked="" type="checkbox"/> 広報ツール・アイテム部門
	<input type="checkbox"/> 教育・教材部門	<input type="checkbox"/> 商業広告部門	<input checked="" type="checkbox"/> 企画部門

土木広報活動または作品名：鉄道土木の安全・安心と魅力を発信

広報活動または作品の概要

<事業概要>

鉄建建設株式会社は、創業以来の強みである鉄道分野の土木事業を通じて、社会の継続的な発展に貢献するとともに、地域社会の活性化に寄与していく企業市民を目指しています。そうした中、当社は鉄道土木分野において、施工段階からお客様が利用されるまで、その魅力と安全について発信しています。

<具体的な取組>

① みんなに発信の場を(障がい者アート、地域児童)

・障がい者アートを使用した仮囲いのデザインの制作、ノベルティの制作と配布

当社は一般社団法人障がい者アート協会の活動に賛同し、鉄道工事現場の仮囲いのデザインに障がい者アートを採用しています。また障がい者アートを使用したノベルティを製作して、現場見学会の参加者、お客様、社員等に配布して、その普及を応援しています。



立川さんによるデザインの仮囲いとお手紙



mizuki さんによるデザインの仮囲いとお手紙

▲2021年1月より千葉県の幕張に新駅を設置する工事の仮囲いには、2人のアーティストの絵を採用したデザインを2カ所に掲示 (撮影協力：JR東日本)



▲障がい者アートを採用したエコバック (2020 年度制作)



▲障がい者アートをあしらったマスクケース (2020 年度制作)

・地域の小学校児童が作成した版画や絵画の掲示

青森駅東西自由通路新設・駅舎改修工事期間中の仮囲いに近接する3つの小学校より児童が作成された版画や絵画を提供いただき、掲示しました。



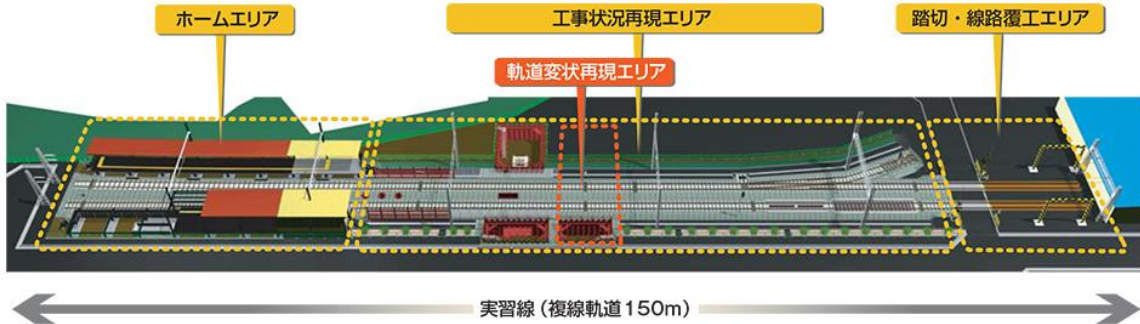
▲2019年5月～2021年8月まで掲示

## ② 鉄道施設を知ってもらう(体験学習会、見学会)

### ・視覚障がい者向け体験学習会や見学会の開催

当社は、社会貢献活動を通じて様々な皆さまとの交流を積極的に行っています。その中で、実物と同じ鉄道施設がある当社独自の「建設技術総合センター」では、毎年視覚障がい者の方と関係者(盲導犬を含む)の方の体験学習会を行っています。

この体験学習会は、視覚障がいの方が鉄道をより安全に利用できるよう、普段は触ることのできない線路やホーム上の設備などに実際に触れてもらい、駅や鉄道の仕組みを知っていただくことが目的です。ホームドア開閉の動作体験、線路に降りて転落した際のホームに上がることの難しさを体感、待避所への避難やホームステップの使用など転落した際の退避行動を体験してもらいます。



▲屋外研修フィールド：全長 150mの複線軌道を中心に駅や踏切、工事桁（簡易橋梁）などを設置



▲ホームドア開閉の動作を体験



▲盲導犬と共にホーム下退避を体験



▲レールの軌間や枕木に実際に触れる

## 広報活動または作品の効果

### ① みんなに発信の場を(障がい者アート、地域児童)

仮囲いのデザインやノベルティに障がい者アートを使用し、障害者アートの普及を応援するとともに、著作権使用料をお支払いすることで障がい者の皆さんの働きがいにも繋がるものです。工事車両や電車等に元々興味を持っていたアーティスト(言わば鉄道ファン)の方に創作活動を発信する場を提供することで、鉄道土木の魅力発信を行っています。

また地域の小学校児童が作成した版画や絵画の掲示においては、作品を見た多くの駅利用者、近隣住民並びに工事関係者に心の安らぎをもたらし、将来を担う小学校児童と共に鉄道土木の魅力発信を行っています。

### ② 鉄道施設を知ってもらう(体験学習会、見学会)

視覚障がい者向け体験学習会・見学会は 2011 年度より毎年行っています。2019 年度は 51 名、2020 年度は 45 名が参加し、いままで通算 33 回実施し、計 577 名の方が参加しました。参加者からは以下のようなメッセージを頂きました。

**Aさん:** 普段から利用している駅のホームですが、安全のために用意されている設備を一度も利用したことがありません。(もちろん、利用しないに限りませんが)それらを実際に体験することができ、大変なになりました。

**Bさん:** 駅ホームと踏切の構造を詳細に知る機会をくださり、本当にありがとうございました。自分が事故に合わないよう注意するとともに、同じ障がいを持つ仲間にも注意喚起していきたいと思えます。

**Cさん:** ホームにある緊急通報ボタンを押すという些細な行為でも、実際に体験することで、そのボタンの位置、高さ、やわらかさ、押す力の入れ具合などがよく理解できました。あせらず考え、行動するために必要な貴重な経験になりました。

**Dさん:** 今回のような学習体験会を長く待ち望んでいました。貴重な体験をさせて頂き、大感謝です。教わったことを他の方にも伝えていきます。

様々な鉄道利用者の方に、実物に触れ体験してもらうことで鉄道利用の安全について理解を深めていただいています。今後も見学会や体験学習を通じて、鉄道土木の魅力を発信するとともに、地域や社会へ貢献できるように取り組んでいきます。

**【記入上の留意事項】**

※本用紙に記載する内容は、A4 サイズで最大 2 枚とします。(使用する文字のフォントは自由、文字サイズは 10～12ptとします。)

※付属資料を提出する場合でも、本用紙内になるべく広報活動状況の写真、記事の画像、図表等を挿入するなどし、見やすくなるよう工夫をお願いします。

※関連 Web サイト情報 (URL) は付属資料として、応募フォーム上で提出してください。

※イベントの主催または共催団体が、関連する活動としての協賛活動を記述することは可能です。

※応募される広報活動または作品について他のコンテストなどの受賞歴がある場合は、必ず記載してください。

※集客数・アンケート結果などの広報効果計測結果や企画そのものの優れている点などについてご自由にご記入ください。

**【注意事項】**応募フォームおよび本用紙に記載・掲載いただいた内容及び写真については、土木広報センターが行う広報活動及び情報提供等（土木学会ホームページ・Facebook・土木学会誌への掲載、土木学会や行事での展示、など）に使用することがございますので、あらかじめご了承ください。